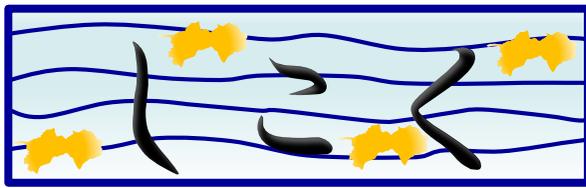


主な記事

- 鳥インフルエンザに係る災害派遣 (1面)
- 旅団長初度視察 (2面)
- 令和2年度四国地区殉職隊員追悼式 (2面)
- 令和2年度機動展開訓練 (2面)
- 陸上幕僚長部隊視察受け (3面)
- 令和2年度後期陸曹候補生等選抜2次試験 (3面)



令和2年(2020年)10・11月 第163号

旅団長統率方針「任務必成」
旅団長要望事項「プロであれ」



陸上自衛隊第14旅団広報紙
発行所：第14旅団司令部総務課広報班
住所：香川県善通寺市南町2丁目1-1
電話：0877-62-2311 (内2256・2257)
メールアドレス：pr-14b-ma@inet.gsdf.mod.go.jp

鳥インフルエンザに係る災害派遣

感染拡大防止に向け

自治体とも連携 災害派遣に従事

第14旅団(旅団長 遠藤充陸将補)は、令和2年11月5日昼、香川県知事からの要請を受け、香川県三豊市における鳥インフルエンザに係る災害派遣活動を開始した。

これに伴い、第15即応機動連隊(連隊長 品川淳二一等陸佐)を基幹とする派遣部隊は、鳥の殺処分等の活動にあたった。

その後、三豊市から約70km離れた東かがわ市においても鳥インフルエンザが発生し、11月8日夕、香川県知事からの要請を受け、三豊市と同時並行して東かがわ市においても災害派遣活動を開始した。派遣部隊は、平成30年1月の同種派遣活動での成果を活かし万全の防疫処置を行いつつ、24時間不休の態勢で二正面作戦の任務を速やかに完遂し、香川県知事からの撤収要請に基づき9日、駐屯地に帰隊した。



鶏舎をくまなく点検する隊員



さらに、香川県三豊市で既に発生した養鶏場から3km以内にある養鶏場において鳥インフルエンザが発生し、11月15日朝、香川県知事からの要請を受け災害派遣活動を開始した。16日朝、任務完了につき香川県知事からの撤収要請に基づき、駐屯地に帰隊した。

11月17日以降、第14旅団各部隊は、新たな鳥インフルエンザの発生に備えつつ、隊務を継続していく。

特集

災害派遣活動フォト集



24時間態勢で活動が続ける派遣部隊(三豊市)



自治体と協力し活動にあたる派遣部隊(三豊市)



三豊市へ向け出発する第15即応機動連隊(善通寺駐屯地)



最終確認で鶏舎のすみずみまで点検



夜間作業にあたる派遣部隊(東かがわ市)



現地を直接確認する遠藤旅団長(三豊市)



陸上自衛隊
第14旅団

掲載中



帰隊報告を行う第15即応機動連隊長品川1佐(善通寺駐屯地)



交代時の確実な消毒処置

遠藤旅団長が初度視察 部隊の現況を把握

遠藤旅団長は、10月26日から11月17日までの間、旅団長統率方針及び要望事項の徹底を図るとともに、任務遂行能力評価の資を得ることを目的として、初度視察を実施した。



隊員を前に訓示を述べる遠藤旅団長

各駐屯地において幹部挨拶、各部隊長から状況報告を受け、隊内の関係施設及び各演習場等の視察を行い、現況を把握するとともに、任務遂行能力評価の資を得た。また、各中隊長等に対する訓話及び各隊員に対する訓示を通じて旅団長統率方針である「任務必成」、要望事項である「プロであれ」について徹底を図った。



隊員と接しながら行われた施設巡視等

四国地区殉職隊員追悼式

第14旅団は、10月10日、善通寺駐屯地第3営舎地区において、令和2年度四国地区殉職隊員追悼式を挙行し、任務遂行中に殉職した50柱の御霊に哀悼の意を表した。

14音楽隊による追悼演奏及び儀仗隊による弔銃並びにご遺族代表挨拶が粛々と行われた。旅団長は、追悼の辞で殉職隊員を偲ぶとともに、「今後とも強い使命感を持って任務を必ず達成するため努力し続けることを約束します。」と、改めて五十柱の御霊に誓った。



追悼の辞を述べる旅団長



弔銃(第15即応機動連隊)



遺族会四国支部会長による代表挨拶



記念撮影

九州・南西地域への機動展開訓練

更なる機動・展開能力の向上へ



CH-47による機動展開訓練

第14旅団は、10月11日から26日までの間、与那国駐屯地において、各種輸送力を使用した機動展開訓練及び展開先における警備訓練の向上を図ることを目的として、令和2年度機動展開

訓練を実施した。本訓練では、大型輸送用ヘリコプター(CH-47)4機による機動展開訓練及び与那国駐屯地における沿岸監視隊(警備小隊)との協同警備訓練を行った。



湯浅陸上幕僚長が部隊を視察

第14旅団(旅団長 遠藤充陸将補)は、10月18日、北徳島分屯地において、湯浅陸上幕僚長による部隊視察を受けた。

北徳島分屯地に所在する第14飛行隊(隊長 高橋慎一郎2等陸佐)及び徳島駐屯地に所在する第14施設隊(隊長 澤水隆一2等陸佐)から湯浅陸上幕僚長に対する状況報告を行い、その後の巡視において、分屯地各施設等の現況確認を受けた。



隊舎屋上での地点説明

状況報告



指揮官との懇談



旗手申告



後期陸曹候補生等選抜2次試験実施

第14旅団は、10月20日から22日までの間、善通寺駐屯地において第1次試験合格者22名に対し、令和2年度後期陸曹候補生等選抜第2次試験を実施した。

試験は、第14旅団第1部長を試験委員長、旅団最先任上級曹長を試験班長として口述試験(個人面接)、体力検定及び術科試験(分隊教練、戦闘戦技試験)を実施した。今回から新たに戦闘戦技試験として、分隊教練終了後、地図の見方及び89式小銃に関する基本的な実技試験を行い、日頃の練習成果を確認し第2次試験を終了した。

第2次試験の合格者は、令和3年1月1日に陸曹候補生に指定される。



新たに追加された地図の見方及び89式小銃に関する基本的な実技試験を行う隊員(戦闘戦技試験)



緊張の面持ちで出番を待つ隊員(分隊教練)

第1回総合戦闘射撃 第15即応機動連隊

即動完遂 強靱な部隊を目指す!!

第15即応機動連隊(連隊長 品川淳一1等陸佐)は、10月22日から30日の9日間、あいち野演習場(滋賀県)において、第14後方支援隊即応機動直接支援中隊及び第14通信隊の支援を受けて第1回総合戦闘射撃訓練を実施した。

第6次連隊野営に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を継続するとともに、10月下旬、朝夕の寒暖差が激しい中で射撃を実施した。

連隊の主攻撃担任部隊として各普通科中隊を基幹部隊として、機動戦闘車小隊を配属、中多分隊、火力支援中隊、施設分隊と協同して、攻撃準備射撃と攻撃前進(第一線目標の奪取)中隊目標奪取と逆襲対処までの一連の攻撃行動を実施し、各級指揮官の射撃指揮、諸職種調整能力、機動



射撃支援の下、攻撃躍進



集団装薬及び破壊筒による地雷原処理



MCVによる突撃支援射撃

と火力の連携の練度向上及び安全管理に係る動作・知識を向上させた。

また、総合戦闘射撃に先立ち旅団射撃集合訓練の成果である分隊戦闘射撃(分隊前進(各個前進)において各普通科中隊の基幹隊員に対して射撃要領(間隙射撃)、練度判定要領及び射撃勤務要領を普及教育し、識能を向上させ、本野営訓練を通じ、中部方面隊唯一の即応機動連隊として、与えられた任務を即動完遂できる強靱な部隊を目指し、練度を向上させた。

引き続き、更なる高みを目指し、部隊の精強化に努めていかなければならない。

第6次・7次連隊野営 第50普通科連隊

任務必成のため着実に練度を向上

第50普通科連隊(連隊長 溝口光章1等陸佐)は、10月3日から8日までの間、第6次連隊野営を、10月20日から24日までの間、第7次連隊野営をあいばの演習場(滋賀県)において実施した。

第6次連隊野営においては、各普通科中隊は81mm迫撃砲の実射訓練を、重迫撃砲中隊は120mm迫撃砲の実射訓練を実施し、射撃の速度及び精度を向上させることができた。

第7次連隊野営においては、重迫撃砲中隊等の実射訓練を実施し、射撃の速度及び精度を所望の練度に到達させることができた。この際、副旅団長の現地指導を受けた。

なお、9月に配置された新配置隊員も、第6次・7次連隊野営に参加し、今回



81mm迫撃砲の実弾射撃



安全教育



緊張感をもって弾薬を準備する新配置隊員



重迫撃砲中隊を視察される副旅団長

初めて迫撃砲実射訓練を経験した。

第50普通科連隊は、若い隊員が多数を占めており、各野営を含む段階的な訓練により、一步一步着実に任務を必成できるプロとしての練度を向上していく。

第14後方支援隊

補給中隊 炊事訓練を実施 隊員の練度向上図る

第14後方支援隊補給中隊(中隊長 長尾陸3等陸佐)は、10月21日及び28日の2日間、善通寺駐屯地第2営舎地区において、中隊炊事訓練を実施した。

本訓練は、11月に実施される後方支援隊炊事競技会にむけて、隊員の炊事練度を向上させる目的で実施された。

訓練内容については、炊事要員8名をもって炊事車を使用して、昼食(ご飯、ビーフカレー、マカロニサラダ、福神漬け及びフルーツポンチ)を各日20名分調理するものであった。

調理に際しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止及び食中毒防止の観点から、こまめな手洗い及びマスクの着用を訓練参加者に徹底して感染防止に努めるとともに、経験豊富な隊員が細部にわたる調理の手順・コツなどを指導して、経験の浅い隊員に習得させる等、実りのある訓練となった。

今回実施した2回の訓練では、喫食した隊員が満足できる調理ができたため、この教訓を生かして、11月に実施される後方支援隊炊事競技会に臨みたい。



炊事車で作業する隊員

中部方面特科隊

部外行事を支援

市民に対して理解と親近感を獲得

中部方面特科隊(隊長 服部真之介1等陸佐)は、10月17日夕から18日昼にかけて、松山市青少年市民会議が主催する



大街道商店街を行進する参加者と隊員

「オーバーナイトハイキング2020」の支援を実施し、松山市民の自衛隊への理解と親近感を醸成した。

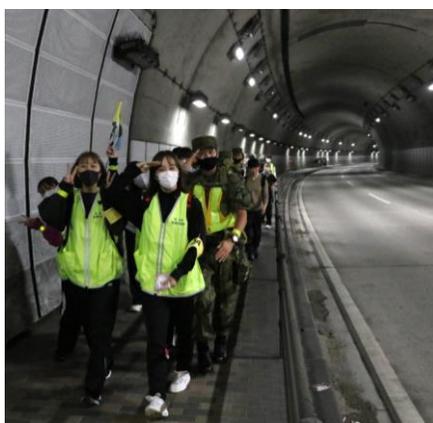
当該行事は、青少年を対象に毎年10月頃、松山市内42kmを一晩かけて歩くイベントであり、本年度は参加者157名に対して、松山駐屯地各部隊31名が支援を行った。

行進は、特科隊長の出発式祝辞による激励に始まり、参加者の徒歩行進におけるサポートを愛媛・松山両大学の学生と協力して実施した。

行進開始直後は会話も少なかったが、中盤を迎える頃には参加者との質問や会話で互いに絆を深め、終盤35kmを越える頃には、疲労

労と足の痛みにも耐えながら完歩を目指す参加者は、隊員による激励を受けつつ、達成感を噛み締めながら手を繋いでゴールした。

本支援に参加した隊員は、責任ある任務と青少年に対する広報に寄与するとともに、松山市民からの親近感を獲得できた。



夜中のトンネルを行進



記念撮影



完歩した参加者と隊員

発着艦訓練 第14飛行隊 海上自衛隊との連携を図る



着艦態勢の航空機を誘導する海上自衛隊員

第14飛行隊（飛行隊長 高橋慎一郎2等陸佐）は、10月23日、令和2年度発着艦訓練を実施した。本訓練は、愛媛県西海上の伊予灘において停泊中の海上自衛隊護衛艦「かが」への発着艦要領を演練するとともに海上自衛隊との連携に係る能力向上を目的として実施した。発艦準備から飛行甲板での浮揚態勢までの動作を演練し、着艦時は、位置通報の指示を受け場周経路（定められた経路）を飛行し、最終進入及び着艦要領を演練した。訓練に参加した操縦士

は、今まで培った操縦技能及び事前の予行等によって、本訓練を安全かつ確実に実施するとともに、発着艦に必要な海上自衛隊との連携要領及び発着艦に係る操縦技能を向上させ、大きな成果を得た。また、航空機に対する支援をしていた海上自衛隊員の迅速、確実な動作を見て見習うものがあると感じた。本訓練で得た成果は統合作戦における海上自衛隊との連携のため特に重要であり、今回の成果を蓄積し、事態に備え万全の態勢を整えていきたい。

第14偵察隊

陸士特技課程「偵察」

「斥候員になるべく」



慣れない手つきでコンパスを使用する隊員



地図上での自己位置を標定



敵を意識して警戒しつつ前進する隊員

第14偵察隊（隊長 塩田将仁2等陸佐）は、10月5日から11月13日までの間、善通寺駐屯地、国分台演習場、大池訓練場及び小野演習場において、令和2年度

陸士特技課程「偵察」を実施した。本教育は、第14偵察隊（第1小隊長 澤島宗真1等陸尉）を教育隊長として、各部隊から計18名の隊

員が参加した。開始式の担任官訓示において偵察隊長は、「気力・体力の充実」「自己管理意識の向上」を要望した。10月21日、国分台演習場においてコンパスの使用法及び初の徒歩斥候訓練を実施した。各隊員は、警戒しながら目標への接触を維持しようとするが、姿が見えないところからの誰何（目標に見つかってしまい声をかけられ警戒されること）に戸惑いながら情報を報告するも、斥候の厳しさを感じた様子であった。11月4日、本課程の集大成となる総合訓練を開始し、深夜遅く非常呼集が鳴り響き、各隊員は迅速な行動で前進準備を完了し、国分台演習場へ前進した。各隊員は、今までの訓練の成果を如何なく発揮し、敵情報に資する情報資料を収集し、任務を達成した。

第14施設隊

近畿府県合同防災訓練・緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練

災害に備え関係機関との連携を強化

第14施設隊（隊長 澤水隆一2等陸佐）は、11月8日、徳島県勝浦町に流れる勝浦川において令和2年度近畿府県合同防災訓練・緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練に参加した。本訓練では、勝浦町消防団に対し、土のう設置に係る技術指導及び橋梁（07式機動支援橋）通過の共同訓練を実施して、部外関係機関との連携を強化するとともに、災害対処能力を向上させた。訓練開始に際し、勝浦町

長の挨拶の後、第14施設隊長は、「災害に対し、関係機関と地域の皆様との連携が重要であり、互いの能力・特性を把握し互いに高めあつて、災害が発生した場合においても迅速かつ柔軟に対応できるように訓練していきましょう。」と述べた。また、11月4日から10日までの間、本訓練に合わせ07式機動支援橋の架設訓練を実施した。



07式機動支援橋の通行を誘導する隊員（写真：上）



勝浦町消防団に対して土のう設置に係る技術指導を行う隊員（写真：下）

全国で初! 「衛星通信移動局装置」を空中機動



第14通信隊

機動展開訓練 陸自システム通信訓練

第14通信隊(隊長 西山仁基2等陸佐)は、10月11日から26日までの間、機動展開能力の向上を図る目的で令和2年度機動展開訓練に参加した。本訓練は、全国で初の試みとして衛星通信移動局装置を高機動車に積載して、大型輸送用ヘリコプター(CH-47)による空中機動及び搭載・卸下を実施し、駐屯地間の防衛情報基盤(DII)を使用したシステム構成を行った。また本訓練に接続し、陸自システム通信訓練に参加して、船舶にてアクセスノードを機動展開させ各種通信手段としてDII、民間通信網(LTE)及び衛星を使用した上級部隊とのシステム通信構成要領を演練した。

第14高射特科隊

機能別訓練(対空)前段

第14高射特科隊(隊長 村上義2等陸佐)は10月12日から20日までの間、松山駐屯地及び小野訓練場において旅団隷下各部隊の携帯SAM知識及び技能を習得させることを目的として、令和2年度機能別訓練(対空)前段を実施した。本訓練は、第15即応機動連隊、第50普通科連隊及び中部方面特科隊から9名の被教育者を受け入れ、中級携帯SAM集合教育として基礎教育の座学、器材点検・操作要領及び携帯SAMの陣地占領を練成し特指指導に当たった近SAM



携帯SAMを陣地に運ぶ被教育者を指導する都築3曹
(写真:右から2番目が本人)

操作要領を指導する都築3曹
(写真:右から2番目が本人)

小隊 都築侑吾3等陸曹は、「旅団全体の対空戦闘能力向上に貢献できましたことを嬉しく感じています。姫路駐屯地で実施する対空戦闘シミュレータ(GSMI17)を使用した訓練においても、教育を受ける皆さんの対空戦闘能力の向上に努めたい。」と語った。

旅団化学火工品処理技能者集合訓練

第14特殊武器防護隊



発煙黄りん手榴弾の取扱い



不発弾の爆破処理を行う隊員



発射式化学火工品の分解教育

第14特殊武器防護隊(隊長 新美賢一3等陸佐)は、10月15日までの間、善通寺駐屯地及び国分台演習場において令和2年度旅団化学火工品処理技能者集合訓練を実施した。本訓練は、旅団隷下部隊の隊員12名に対し、取扱い及び処理に係る必要な知識及び技能を習得させた。この際、隊の基幹要員の練成訓練も併せて実施し、練度の維持向上を図った。

選抜試験合格を勝ち取れ!

部隊紹介

第14旅団司令部付隊

「後期旅団統一陸曹候補生等選抜1次試験の実施について」

第14旅団司令部付隊第1勤務班で勤務しております森本1曹です。

自分が勤務する第1勤務班は、第1部の総括班と人事班で構成される陸曹10名が勤務しており、幹部自衛官と一体となり、隊員の採用、昇任、昇給、退職、表彰、就職支援及び各種制度の周知等の人事管理業務等を行っています。

今回は、その中でも重要な業務の一つである選抜試験業務について、旅団統一陸曹候補生等選抜1次試験(令和2年8月26日)を実施しましたので紹介いたします。

みなさんは、選考と選抜の違いが判りますか?

2等陸曹から准陸尉までの昇任については、勤務実績に基づく選考により行われます。

特に、試験等の機会はなく、ある種の条件を満たす者の中から適任者を選び出すことが選考です。

それとは別に、同一条件において優れた者を選び出すことが選抜です。

努力した結果を試験で発揮でき、実力で陸曹候補生指定及び3等陸曹昇任が勝ち取れます。

受験する側も必死だと思えますが、試験を準備・実施する側もミスが許されない重要な業務となります。

その重要な業務を整斉と遂行するため、次の点に留意して、準備・実施していきます。

【試験問題作成】

設問が明確かつ、陸曹候補生課程入校、初級陸曹として必要な知識が身につく事を見据えた問題作成

【試験問題の点検】

誤字、脱字、問題の記載要領に疑義がないか、3名以上で実際に試験問題を解答し点検

【試験会場の点検】

受験者の距離間隔の確保、換気、室温、机・椅子のガタつき等が無いかな、チェックリストによる点検

【採点の相互点検】

採点ミス防止のため、解答紙の相互点検

以上のように、受験者の努力が無駄にならないように、試験実施者側も、周到な準備と相互点検により、公正・公平な受験機会を準備しています。

最後に、今後陸曹候補生等選抜試験を受験される隊員の方々に、自分の将来に迷っている隊員もたくさんいると思いますが、陸曹になれば職務の幅も広がり、自衛隊での自分の活躍の場を発見することが出来るため、陸曹候補生等選抜試験を頑張ってみてはどうでしょうか?

また、各部隊試験対策担当陸曹の努力についても拝見する機会があり、公私の熱心な指導に感謝しています。

お互いに連携して、後輩隊員の育成を頑張りましょう。



採点ミスがないか相互点検を行う第1部人事陸曹



試験会場の準備・点検を行う河端2曹



試験問題の点検を行う宮本2曹



試験問題を作成する山本3曹(右) 助言を行う高橋1曹(左)



第14旅団司令部付隊 第1勤務班 1等陸曹 森本 博文

人事往来

転入



第14高射特科隊長
(高等工科大学)
2等陸佐 富高 英和

転出



第15高射特科連隊副隊長
(第14高射特科隊長)
2等陸佐 村上 義

令和2年12月1日付

部内・外表彰

部内

■実技試験優秀賞
第240期上級陸曹特技課程
「部隊化学」

第15即応機動連隊
本部管理中隊

3等陸曹 古原 聖悟

■中隊長賞
第6期陸曹中級課程教育

第15即応機動連隊機動戦闘車隊
第1機動戦闘車中隊

2等陸曹 谷口 匠

■中部方面混成団長賞

第137期二次陸曹候補生課程
第15即応機動連隊

火力支援中隊
陸士長 清水 宏晃

部外

■優勝(男子シングルス)
2020年度全日本卓球選手権大会

第15即応機動連隊
本部管理中隊

1等陸士 吉田 智史

■準優勝(一般上級の部)
第37回全四国空手道選手権大会

第15即応機動連隊
第2普通科中隊

陸士長 池内 敬直

■第3位(男子3000m)
2020年度香川陸上競技カーニバル大会

第15即応機動連隊
第1普通科中隊

曹長 渡部 和幸

らっぱ手のためのワンポイントレッスン vol.4

今回のテーマは、Vol. 1のワンポイントレッスンで挙げた「理想の音」について、「楽譜通りに吹奏出来ているか」についてだ。

「理想の音」のイメージは出来ただろうか。

音色は人によって様々で、その人にしか出せない音がある。その中でも、「優しい音」や「力強い音」「暖かい音」など、音色の引き出しを増やしてみたい。

例えば、「気を付け」は力強い音で、「消灯」は優しい音をイメージして吹奏してみよう。これだけでガラリと雰囲気も変わるし、聴いている人達にも必ず伝わるだろう。

次に「楽譜通りに吹奏出来ているか」というテーマについてだが、日課号音を聴き覚えで吹奏してはいないだろうか。今一度、楽譜を見ながらメトロノームに合わせて練習してみたい。なぜなら楽譜通りに吹奏出来ない人が多く見られる。特に目立つのが、「君が代」と「消灯」だ。例えば「消灯」の最初の音は、2分音符だから2拍伸ばすと楽譜に書いてあるのだ。

楽譜を読むのが苦手な人もいるだろう。楽譜の読み方は教範に載っている。根気のいる練習にはなるが、正しい演奏と自分らしい理想の音色で、更にらっぱ吹奏に磨きをかけて欲しい。

では次に音楽隊の近況について紹介する。

10月に3名の新隊員が着隊した。担当楽器は、サクソ担当の三好1士、クラリネット担当の須山2士と環2士だ。フレッシュな3人のパワーに期待し、14音楽隊を更に盛り上げてもらいたい。



*写真左から、三好1士、環2士、須山2士

隊員投稿

「休日の日課」

第14通信隊 1等陸尉 太田 裕則

私たち家族は、今年8月に練馬区から善通寺へ引っ越ししました。練馬区では約8年もの長期にわたり生活していましたが、引っ越しが決まったことに家族からの反対もありましたが、少しずつ理解を得て、今では善通寺での新たな生活にもすっかり慣れ、家族共々、善通寺に来て良かったと思えるようになりました。

その理由の一つとして、私たち家族の食生活を変える「うどん」との出会いが大きかったです。感じています。引っ越ししてからは、必ず休日の始まりに「うどん」を朝食として食べに行くことが日課となる程、「うどん」にハマっています。すでに香川県内のうどん屋は約30店舗制覇しました。

「うどん」を通じ家族共通の楽しみが増え、今後も家族



共々、満喫した生活を送ってきたいです。(もちろん「うどん」以外にも満喫します。)

隊員家族投稿

「自衛官の妻として」

第50普通科連隊 第1中隊
陸曹長 後藤 哲也
妻 栄子



平成2年11月17日に入籍し、早いもので30年が経とうとしています。振り返れば、色々ありました。

結婚当初は、熊本市内の勤務で実家の大分県竹田市とは2時間位で帰っていました。4年後には静岡県御殿場市の勤務となり、周りには知り合いも居なくて心細くなり、すごく辛い思いをしたことを覚えています。

しかしながら、住めば都と言葉の意味を6年間の生活で実感しました。その後、名残惜しく思いながら熊本に戻り、今は単身赴任でした。

単身赴任当初は、事あるごとに不在の旦那のせいにして、夫婦喧嘩の繰り返しでしたが、時がたつにつれ「亭主元気でなんとやら」で、今では「元気に働いてね」といった感じです。

結びにあれこれ言いましたが、単身赴任はまだ終わっていませんが、妻として本当に支えられたのかは私にはわかりませんが、夫に「お疲れ様」と「これからもよろしくお願いします」の二つの言葉を送ります。



「善通寺駐屯地卓球クラブの“チョレイ1士”」

第15即応機動連隊 本部管理中隊
1等陸士 吉田 智史



善通寺駐屯地(第15即応機動連隊)で勤務する、全国自衛隊卓球大会で優勝経験もある吉田智史1等陸士を紹介します。

吉田1士は、令和2年11月3日、三豊市高瀬町で行われた「天皇杯・皇后杯2021年全国日本卓球選手権大会(一般の部)」の香川県予選会において、参加者102名中、見事優勝(初優勝)し、来年1月、大阪府で行われる本戦への出場を決めました。2名しか枠のない中で、2年連続の出場になりました。(昨年度は準優勝)

吉田1士は課業外の時間を活用し、自身の練成を継続するとともに、地元の小中学生を中心に卓球指導にあたり、レベルの向上及び競技の普及に努めています。

吉田1士の今後の目標は、陸



曹になり自衛官としても活躍する事です。チョレイ!
(文 第14旅団司令部付隊 伊藤和真2等陸曹)

「ふり返って」

第14高射特科隊 2等陸曹 鈴木 悟史
妻 菜微



「次の異動が愛媛に決まったよ。」

次の転属先は遠くになると聞いてはいましたが、全く足を踏み入れたことのない四国になるとは思っておらず、引っ越し前は不安しかありませんでした。馴染み通っていた幼稚園と友達が大好きだった娘は、友達と離れ転園先の幼稚園になかなか馴染めず毎日泣いていました。馴染め

なかった主な理由は言葉でした。私も主人も関東出身なので娘には愛媛の言葉が常に強い口調に聞こえ、「お友達に怒鳴られた、強く言われた。」と言つて泣き、「前の幼稚園に戻りたい、お友達に会いたい。」と当時6歳だった娘に言われ、帯同でついてきたのは失敗だった・・・と感じていました。

そんな娘も引っ越しから2年

を越え、言葉はすっかり伊予弁!強い口調で怒鳴っているかのように夕飯に文句をつけてきます。子供の順応性の高さは驚異的で逞しく感じます。

そんな逞しい娘が去年の12月にもう一人増えて家族4人、毎日楽しい日々を送っています。

私の地元は栃木で、いつか地元に戻りたいと思っています。ですがこの約2年半を振り返ると、初めての土地で過ごした日々は楽しいことばかりでした。もちろん大変なことや辛いこともありましたが、家族みんなが乗り越えてより一層家族の仲が深まり、そしてそれ以上に楽しいことや面白いこと、さらには新しい発見が待っていると感じています。

もし今、遠方への転属を不安に思っている方がいましたら私は「きつと大丈夫」と伝えたいです。新しい発見は楽しいことや面白さに繋がっていくことを経験できたので、今は少しだけ主人に感謝しています。



陸上自衛隊 第14旅団

逐次更新中!



陸上自衛隊 広報チャンネル



陸上自衛隊広報チャンネル (YouTube) に 「自衛隊式感染症予防」 を掲載中!